

2014年度

S 世界史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

8～9世紀に、アッバース朝と唐の支配の下で、ユーラシアからアフリカ北部を覆った世界交易の網の目は、この両権力が衰えるとともに一体性が減じ、世界は分裂の時代に入る。以後13世紀にモンゴル人がユーラシアを制覇するまでの各地の歴史を概観しよう。

唐の衰微は、モンゴル高原におけるウイグルの発展と表裏の関係にある。9世紀半ばに(イ)に討たれてウイグルが崩壊し、ウイグル人の一部が南下して各地を動揺させた。東アジアでは唐の滅亡後、五代十国を経て宋が起り、新しい支配体制が築かれた。その宋と並んで強勢を誇ったのが契丹すなわち遼である。太祖である(ロ)が10世紀の初めモンゴル高原東部に建国した遼は、中国東北部の<あ>を滅ぼしてその地を支配し、936年には華北の燕雲十六州を併合して、1004年、宋との間に、宋を兄とし遼を弟とする平和条約、(ハ)を結んだ。1127年、宋は中国東北部に興った金に敗れて黄河流域を放棄し南方に退いた。

遼がモンゴル高原を支配することで中央アジア南部の東西交易路も政治的に安定し、東から順に、甘粛方面には西夏が、タリム盆地には西ウイグルが、さらにパミール高原の西を中心にカラ=ハン朝が並び立った。(ニ)が1038年に皇帝を自称し建国した西夏はタンゲート人の国で、漢字の影響を受けた独自の文字を有し、東西交易で繁栄した。西ウイグルとカラ=ハン朝はともに南下したウイグル人が建てた国で、この移動の結果、パミール高原の両側はトルコ化して、今日まで東・西トルキスタンと呼ばれることになった。西ウイグルはのちにモンゴル帝国にいち早く服属し、その経済運営を担うことになる。他方カラ=ハン朝の人々はイスラーム化した最初のトルコ系遊牧民といわれ、アッバース朝から9世紀後半に自立した(ホ)朝を破って中央アジア西部を支配した。のちにカラ=ハン朝は、金に討たれて西走した遼の王族によって滅ぼされ、この地にはこの王族によって1132年に<い>が建国された。

10世紀のイスラーム世界ではアッバース朝カリフの権威を認めないシーア派が次第に力を強めた。北アフリカではファーティマ朝が勢力を拡大した。イラン高原にはブワイフ朝が台頭して、946年バグダードに入城しカリフから大アミールに任じられた。こうしたシーア派の動きに、スンナ派の信仰を奉じて対抗したのが中央アジアに興ったトルコ系のセルジューク朝である。王のトゥグリル=ベクは、1055年カリフの招きでバグダードに入り、ブワイフ朝の勢力を一掃してカリフからスルタンの称号を許された。こののち、イスラーム諸国の君主の称号としてスルタンが用いられるようになる。さらにセルジューク朝は、第2代スルタン、<う>の時にビザンツ帝国の軍を破ってアナトリアに進出し、

この地をトルコ化・イスラーム化していった。このことはビザンツ帝国に危機感を抱かせ、西欧諸侯の十字軍遠征のきっかけとなった。

9世紀後半から11世紀前半にかけてのビザンツ帝国は繁栄期を迎えていた。961年クレタ島、965年キプロス島を占領してこの近辺⁶⁾の制海権を奪回し、アルメニアとシリアを領土に加え、バルカン半島では7世紀から国を建てていた<え>人を1018年に降し、1020年代には南イタリア支配を確立した。ロシアにビザンツ文化が及んだのもこのころのことである。しかし11世紀後半になると帝権は勢いが弱まり、1071年に<お>の戦いでセルジューク朝に敗れて皇帝が捕虜となり、同年ノルマン人に攻められて南イタリアを失った。

ノルマン人の一部は8世紀後半から欧州・地中海方面に遠征を始め、各地に混乱をもたらしていた。当初は侵入・掠奪を繰り返すだけだったが、911年にはその一派が北フランスのノルマンディーに封土を得て定着した。その後彼らの一部は、11世紀末にビザンツ領だった南イタリアに進出し、さらにシチリア島をイスラーム勢力から奪って1130年ルッジエーロ2世が王位についた。それより前、1066年にはノルマンディー公ギヨーム2世が海を渡ってイングランドを征服し、ウィリアム1世として王位⁷⁾についた。

西欧では870年のメルセン条約でフランク王国ロタール⁷⁾領のアルプス以北の部分が東西に分けられたが、以後東・西フランクはともにノルマン人侵入の混乱の中でカロリング朝の王権が衰微した。東フランクでは919年ザクセン大公が<か>として即位しザクセン朝を開いた。その子オットー1世はローマ教皇から冠を授けられ、最初の神聖ローマ帝国皇帝となった。彼は<へ>人・ノルマン人・スラブ人を撃退し部族勢力を抑圧することで東フランクの政治的再統一を果たしたが、その際<き>政策を導入したことでのちの聖職叙任権闘争の原因を作った。ノルマン人の脅威が深刻であった西フランクでは王権は早期に衰え分権化がいちはやく進んだ。987年にユーグ=カペーがカロリング朝のあとを受けてカペー朝を創始したが、その実質的な支配領域は当初パリ盆地近辺に限られていた。

1095年、ビザンツ帝国の救援要請を受けたローマ教皇ウルバヌス2世がフランス中部の<ト>で行われた宗教会議で十字軍を提唱したとき、西欧はおおむね以上のような歴史を経てきていた。第1回十字軍は、1099年に聖地奪還の目的を果たしてイェルサレム王国を建てた。しかしイスラーム勢力の反撃に対抗しようとした1147~49年の第2回十字軍は失敗に終わり、その後イェルサレムは、サラフ=アッディーンに奪回された。

第1回十字軍が提唱された時点での神聖ローマ帝国皇帝は⁸⁾ハインリヒ4世であった。彼は神聖ローマ帝国内の司教の叙任権をめぐり、ウルバヌス2世の2代前の教皇<チ>と争って破門され、1077年カノッサ城外で雪中に3日間立ち続けてようやく許されるとい

う事件を起こしていた。この聖職叙任権闘争は、1122年の（リ）協約で妥協が成立し、以後ドイツは分権化が進んでいくことになる。

A. 文中の空所(イ)～(リ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所<あ>～<き>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- <あ> a. 新羅 b. 大理 c. 百済 d. 渤海
- <い> a. エフタル b. カラ=キタイ c. ナイマン d. ホラズム
- <う> a. アルプ=アルスラーン b. イブン=ルシュド
c. ウスマーン d. ハールーン=アッラシード
- <え> a. アヴァール b. タタール c. ブルガール d. フン
- <お> a. アウステルリッツ b. カタラウヌム
c. マラーズギルド d. レヒフェルト
- <か> a. ヴィルヘルム1世 b. ニコライ1世
c. ハインリヒ1世 d. マクシミリアン1世
- <き> a. 異端審問 b. 皇帝教皇 c. 帝国教会 d. 領邦教会

C. 文中の下線部1)～8)にそれぞれ対応する次の問1～8に答えよ。

- これに先だって、6世紀から8世紀にかけモンゴル高原を支配した遊牧国家の名を、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 高車 b. 柔然 c. 鮮卑 d. 突厥
- これを支えるものの1つとして、この時代に再編成された科挙がある。宋代に確立した制度では科挙は3段階に分かれ、最初の段階を州試または解試、最後の段階を殿試という。その間の第2段階を何と呼ぶか。その名をしるせ。
- 宋の南渡の3年後に生まれ、四書を重んじて宋学を大成した儒学者の名をしるせ。
- トルコ人はこれより早く9世紀初めごろから、イスラーム諸国の権力者に奴隸（マムルーク）として多数仕え、のちには高い地位にまで登る者も出た。トルコ人奴隸は一般にいかなる技術に優れ、アッバース朝のカリフにどのように用いられたのか。1行でしるせ。

5. この王朝は、スナ派の神学と法学を奨励して学問を振興するため、領内の主要都市に高等教育機関（学院）を建設した。この機関は、この王朝では、その建設を指導した宰相の名をとってニザーミーヤとも呼ばれた。そうした高等教育機関のことを一般的には何と呼ぶか。その名をしるせ。
6. この帝国では9世紀前半まで百年以上にわたり教会政策をめぐる論争が生じた。そのきっかけを作ったのは726年に皇帝レオン3世が発したとされるある布告である（正式の勅令発布は730年）。この布告の名をしるせ。
7. ウィリアム1世を祖とするノルマン朝は4代続いたが、最後の王に男子がなく、3代目の王の娘の嫁ぎ先であるアンジュー伯ジョフロワの息子がイングランド王位を継いだ。彼を祖とするイングランドの王朝の名をしるせ。
8. サラーフ＝アッディーンから聖地を再び取り戻すため西ヨーロッパ諸侯が総力をあげたのが1189～92年の第3回十字軍であり、これにより十字軍運動は最高潮に達した。この第3回十字軍に参加した、①神聖ローマ帝国皇帝、②フランス王、③イングランド王の組み合わせとして正しいものを、次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. ①カール4世、②フィリップ4世、③エドワード1世
- b. ①フリードリヒ1世、②フィリップ2世、③リチャード1世
- c. ①フリードリヒ1世、②ルイ9世、③ヘンリ2世
- d. ①ルートヴィヒ2世、②フィリップ2世、③ヘンリ2世

Ⅱ. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

イスラーム世界といえば中東のイメージが強いが、人口の面から見ると、世界でも有数のイスラーム教徒を抱える国々には、インドネシア、パキスタン、インド、バングラデジュ、ナイジェリアなど東南アジア、南アジア、アフリカの諸国が名を連ねる。イスラーム世界は中世を通じてヨーロッパ・キリスト教圏とその東西で接触・交渉を繰り返す、インドには西方のアフガニスタン経由で、東南アジアには海の道を伝って拡大していった。

ヨーロッパでは、8世紀前半、イベリア半島の西ゴート王国を滅ぼしたウマイヤ朝がフランク王国領内に進攻したが、トゥール・ポワティエ間の戦いで宮宰（イ）指揮下のフランク軍に大敗した。以後、イスラーム教徒とキリスト教徒はピレネー山脈を境に対峙した。イベリア半島のイスラーム支配は、1492年、（ロ）朝の首都グラナダがキリスト教徒勢力による国土回復運動（レコンキスタ）により陥落して、終結した。

一方、ヨーロッパ²⁾のなかでも東地中海地域では、オスマン帝国によるイスラーム世界拡大の動きが長く続いた。1389年の（ハ）の戦いでセルビア、ボスニアなどドナウ川以南のバルカン半島がオスマン帝国支配下となり、さらに1453年にはコンスタンティノープルが陥落し、ビザンツ帝国の1000年を越す歴史は幕を閉じた。オスマン帝国は16世紀、第10代スルタンであるスレイマン1世の時代に最盛期を迎えた。しかし、17世紀後半になると、第2次ウィーン包囲で派遣した15万の大軍が撃退され、カルロヴィッツ条約でハンガリー主要地域、トランシルヴァニアなどをオーストリアに割譲し、オスマン帝国のヨーロッパでの退潮は決定的となった。

インドでは、1206年、アフガニстанを拠点とする（ニ）朝の武将アイバクがデリーを首都としてイスラーム王朝である奴隷王朝を建国した。その後もデリーを中心に北インドを支配するイスラーム4王朝が続いた。16世紀前半にはインド史上最大のイスラーム国家であるムガル帝国が興り、中央集権化を進めた第3代皇帝アクバルの治世を経て、第5代皇帝シャー＝ジャハーン⁴⁾の時代にはくあ>に代表されるインド＝イスラーム文化が最盛期を迎えた。

東南アジアでは、イスラーム教を受容したマラッカ王国が本格的なイスラーム国家となり、マレー半島、スマトラ、ジャワなどにイスラーム文化を広めた。15世紀末、スマトラ島北部には（ホ）王国が建国され、20世紀初めにオランダの支配下に入るまで存続した。マラッカ王国、（ホ）王国をはじめとするこの地域の多くの国家は交易中心に栄え、港市国家とよばれる。

5)

A. 文中の空所(イ)～(ホ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の空所(あ)にあてはまる適当な語句を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. アンコール=トム
- b. タージ=マハル
- c. ナーランダー僧院
- d. ボロブドゥール

C. 文中の下線部 1)～5) にそれぞれ対応する次の問 1～5 に答えよ。

1. この地にイスラーム勢力が残した、世界遺産に登録されている宮殿の名をしるせ。
2. この運動の中心となり、1479年にアラゴンと合併してスペイン王国をつくった国の名をしるせ。
3. スレイマン 1 世治世下のオスマン帝国に関する記述として正しくないものを、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. ウィーンを包囲し、ヨーロッパ諸国に大きな脅威を与えた
 - b. スペイン、ヴェネツィアなどの連合軍を破り、地中海の制海権をほぼ手中にした
 - c. 西欧趣味の文化が栄え、チューリップ時代といわれた
 - d. ハンガリーを破り、その主要地域を支配下に収めた
4. 次の 4 王朝 a～d のうち、建国された時期が 3 番目に古いものを 1 つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. サイド
 - b. トウグルク
 - c. ハルジー
 - d. ロディー
5. 1 世紀ごろ、メコン川下流に建てられた港市国家を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 真臘
 - b. チャンパー
 - c. パガン朝
 - d. 扶南

Ⅲ. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

近代ヨーロッパで絶対王政を倒す動きの主役となったのは、経済活動で力をつけてきた裕福な市民たちだが、その後、より広範な社会層を巻き込んで政治的諸権利のさらなる拡大、平等化が進んだ。それは19世紀以降の参政権の拡大に具体的に表れている。

イギリスでは、産業革命の進行につれて、人口が激減したにもかかわらず議席数が変わらなかった（イ）選挙区の問題が深刻となった。隣国のフランスで1830年に起きた革命の影響も受けて、1832年、（ロ）党のグレイ内閣¹⁾のもとで第1回選挙法改正が行われ、産業資本家たちに選挙権が与えられた。しかし、この改正で選挙権を得られなかった労働者たちは、〈あ〉をつくり、1830年代後半から約10年間、普通選挙実現を掲げて組織的な運動を展開した。19世紀後半には議会政治が発展し、重要な改革が次々となされていった。1867年の第2回選挙法改正で都市労働者の多くが、1884年には（ハ）首相率いる内閣のもとでの第3回選挙法改正で農業・鉱山労働者らが、選挙権を獲得した。財産資格が撤廃されて男性普通選挙が実現したのは（ニ）首相率いる挙国一致内閣による1918年の第4回選挙法改正によってであり、成人男性および30歳以上の女性に選挙権が与えられた。その10年後の1928年、第5回選挙法改正ですべての成人男女に選挙権が与えられ、イギリスの男女平等普通選挙制は完成した。

王政を廃止したフランスでは、早くも〈い〉で男性普通選挙がうたわれた。しかし、情勢の変化により〈い〉自体が実施されるに至らなかった。七月王政期には全人口のわずか1パーセントほどの銀行家、大商人、大地主らが選挙権を独占していたため選挙法の改正運動が活発になり、その末期の1847～48年には各地で、有産市民に急進共和派や社会主義者も加わり選挙権拡大などを求める集会が開かれた。七月王政が倒れて発足した第二共和政下で1848年²⁾4月、男性普通選挙が実施された。

英仏に比べ、³⁾国家統一と近代化が遅れたドイツでは、1871年に制定された憲法で男性普通選挙が（ホ）議会に導入された。1919年には、第一次世界大戦での敗北を受けて、男女平等普通選挙などを規定した、当時最も民主的な（ヘ）憲法が成立した。しかし、それは1930年代、ヒトラーが権力を掌握していく中で実効性を失っていった。

アメリカ合衆国では1920年、（ト）をうたった憲法修正第19条が批准された。しかし、南北戦争で奴隷の身分から解放されたアフリカ系住民に対して、南部では選挙権を含めて実質的に市民権を剥奪する動きが進んだ。それに対して、1950～60年代には差別撤廃を求める公民権運動が盛んになった。

⁵⁾

- A. 文中の空所(イ)～(ト)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。
- B. 文中の空所<あ>・<い>にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。
- <あ> a. 権利の章典 b. 権利の請願 c. 人民憲章 d. 大憲章
- <い> a. 1791年憲法
b. 1793年憲法 (ジャコバン憲法)
c. 1795年憲法 (共和国第3年憲法)
d. ナポレオン法典
- C. 文中の下線部1)～5)にそれぞれ対応する次の問1～5に答えよ。
1. この革命でイギリスに亡命したブルボン朝最後の王の名をしるせ。
 2. この集会は何と呼ばれるか。その名をしるせ。
 3. この選挙に関連する記述として正しいものを、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. この選挙の結果、国立作業場の設置が実現した
 - b. 選挙により成立した政府の施策に対して、六月暴動が起きた
 - c. 農民は社会主義勢力を支持した
 - d. ルイ＝ナポレオンが大統領に選ばれた
 4. この過程で1933年に成立し、立法権を政府にゆだねる内容で独裁体制を基礎づけた法の名をしるせ。
 5. この運動を非暴力主義で指導し、1968年に暗殺された牧師の名をしるせ。

【以下余白】

